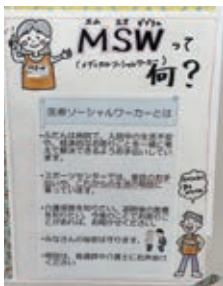




能登半島
地震

能登半島地震1.5次避難所での医療ソーシャルワーカーの支援活動

医療ソーシャルワーカー(MSW)は、普段は病院で病気やケガに伴って起こる様々な生活面のご相談にのる仕事をしています。このたび、2月の末から3週間、日本医療ソーシャルワーカー協会の要請で、石川県医療ソーシャルワーカー協会と一緒に「1.5次避難所」いしかわスポーツセンターで災害支援活動を行いました。1.5次はこれまでの災害避難所にはなかった概念です。地震による避難生活が長期化する中、被災した高齢者や障害者、妊婦や乳児など特に配慮が必要な方がホテルなどの「2次避難所」に移るまでの一時的な受け入れ先として余震の少ない金沢市内に開設されました。発災から2か月の能登は、まだ道路も水道も復旧が進んでおらず、自宅の様子を見に行きたくても容易に行ける状況ではありませんでした。長く先の見えない避難生活で無理を重ねる中、体調を崩される方や、これまでの生活が大きく変わり新たな生活構築に福祉の支援が必要になる方も多くみえました。私たち医療ソーシャルワーカーは、避難所内で通院



や入院が必要となった方のために、避難所の医師からの依頼で石川県内の病院と連絡を取ったり、特に医療や介護が必要となった方が施設へ入所するための介護保険申請の書類作成の支援をしたり、新たに避難所に入所される方のお話を保健師と一緒に伺いどのような支援が必要か確認したり、これから新たに生活を立て直すかたの生活環境の調整などを行ったりしました。避難所には全国から医療・保健・福祉の様々な支援チームがきていますが、短期間でメンバーが入れ変わり、避難所の状況もめまぐるしく変わっていきます。これからはなかなか進まない復興へ不安や孤立、経済面など生活の再建にむけた課題が出てくる時期でもあります。今も現地では個々の力を信じて寄り添いながら、1日も早くそれぞれの暮らしが取り戻せるよう、支援のバトンをつないでいます。

(医療社会事業専門職
高村純子)



医療福祉相談室 ● 病院紹介 ●

〈退院調整看護師〉



医療福祉相談室では、医療ソーシャルワーカー3名・退院調整看護師2名で協力しながら、安心・安全な医療が受けられるように、また、療養中の不安が解消できるように患者様ご家族のサポートを行っています。

医療ソーシャルワーカーは、「病気や障害とこれから一緒にやっていけるかな...」「自分が使える福祉サービスってなにがあるのかな?」など、生活支援や福祉サービスの利用支援について主に社会福祉の相談について対応しています。

退院調整看護師は、患者様の意向を確認しながら、医師・理学療法士・作業療法士・病棟看護師など多職種と協力連携し退院後の生活にむけて支援しています。院外のケアマネージャーや訪問看護師などとも連携しています。看護・医療に関する相談も受け付けています。

外来通院中の方でも心配ごとや困りごとのご相談をお受けしておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

(地域医療連携係長 岡 道代)

異動のごあいさつ

新任

●小児科 中村 知美(なかむら ともみ)先生



みなさま初めまして。4月より小児科に異動してまいりました、中村知美と申します。三重大を卒業後、初期研修として当院で小児科研修を行ってから早いもので9年ちかく経過しました。色々な患者さんや指導者との出会いの中で、総合的な小児診療に加えて神経筋疾患、神経発達症など小児神経領域を専門に診ることができればと考え、三重大で小児神経の診療・研修を行い、このたびご縁があり当院で勤務させていただき運びとなりました。患者さまとご家族の力となれるよう、尽力いたしますため、今後ともよろしくお願い申し上げます。

やまばと ギャラリー

今月の作品は、「Tシャツ」です。ジェルマーカー、包装紙、新聞紙などを使って作りました。色とりどりの爽やかで可愛いTシャツが夏を

感じさせますね。是非やまばとギャラリーでご覧ください!
(児童指導員
森 日奈子)

